

## 2021.09 Monthly Report



写真1 / 東京国際大学新キャンパス工事現場

## 東池袋に建設されつつある新たな都市空間は防災&文化の新たな拠点 新再開発計画が豊島区を消滅可能性都市から存続可能性都市に替える

～変わりゆく東京・変わりゆく都市空間～

### ☆サンシャイン 60 に隣接する東池袋再開発の今

豊島区東池袋 4 丁目で進められている再開発事業が、だいぶカタチになってきた。

この再開発事業は 2016 年まで稼働していた造幣局東京支社の移転に伴い、その跡地（約 3.2ha）を豊島区が主導し、そのうち約 1.7ha を区の防災公園に、残りの約 1.8ha 分を東京国際大学の池袋キャンパスにしようとするものだ。

防災公園については、愛称《イケ・サンパーク（正式名称は「としまみどりの防災公園」）》として昨年完成。遊具を備えたキッズ・パークや、カフェレストランなども端っこにあるが、中央部分は芝生の広大な広場となっている。

この広場は災害時などの一次避難場所（約 2500 人収



写真2 / 鉄骨が次々と組み立てられつつあった

容可能）となり、ヘリポートや救援物資集積拠点、復旧・復興段階の資材置き場などとしても機能する役割をもっており、そのために普段はただっ広い空間になっているのだ（写真3、5、6、9参照）。

そのための補助機能として応急給水施設、深井戸（消火用水、生活雑用水）、防災井戸（生活雑用水）、耐震性貯水槽（生活雑用水）などの各施設が備わっている。

また電源としては、イベント用電源、ソーラー電源が用意され、管理棟トイレ、非常用トイレ、非常用発電機、備蓄倉庫、防災行政無線、防災カメラ、かまどベンチ、非常用公衆電話、バルーン投光器などが備えられている。

これらの防災設備は使われないで済めば、それに越したことはないが、日常的には区民の憩いの場としてすでに機能している様子が、取材時にも見て取れた。

また、一昨年 10 月には、池袋保健所が公園の端に移転済み（写真4参照）だ。

この再開発事業のもう一つの目玉は、前述したように東京国際大学の新しいキャンパス（川越市から移転、2023年9月に開校予定）の建設だ。

1.7ha の敷地に延床面積約 3 万 5000 m<sup>2</sup>（地上 22F 建）の高層キャンパスが誕生する。

東京国際大学池袋キャンパスは、同大学の特色である国際関係の教育機能をこの地に集約することを目的としている。川越キャンパスからは約 3500 人の学生